

福良灣に於けるPlanktonの觀察記録

東 克 彦

去る8月上旬淡路福良に於て行われた臨海実習の一課題に Plankton の觀察が取上げられた。其の際の材料にもとづく觀察記録をここに綴つてみる。

採集は日の出前にミュラーガーゼ20番の Plankton-net で水平採集を行つた。定量的な問題及び採集に必要な要因の測定等は度外視し、単に觀察の爲の採集を行つたに過ぎない。従つてここに出現する Plankton の多少を以つて福良灣の夏季の Plankton の量的な問題を論ずることは出来ない。しかも其の上後日ホルマリン漬の採集品を浅学の私が検鏡したのであるから、残念ながら正確なものとは云い難い。ただ私に爲し得る範圍の結果を次に記し先輩諸兄の御指導を仰ぎたく思ふ。

原生動物に於ては全般を通じての出現率は少ないが Noctiluca と Ceratium が顯著である。特に Ceratium は吾が邦で見られる暖海産の代表種のほとんどが見られた。中でも C. tripos, C. macroceros はしばしばその優美な姿を顕微鏡下に示した。

幼生も比較的多く中でもカニの Zoea, クラゲの Actinula が目立ち、稀ではあつたが、二枚貝の後期幼生である Post Larva 又 Muller Larva, Trochophora Larva も見られた。

珪藻類は量的にも動物性 Plankton を圧倒し、Chaetoceras は特に多量、中でも C. diciptiens が顯著恐らく未だ2、3種はあるであろうが私には種を決定することが出来なかつた。次いで Rhizosolenia これも多い。R. stiliformis と思われるものが大半を占めていた。この仲間であれば遠洋性暖海産であるが本邦近海にも多く、特に春季に著しいものであるが夏季に於ても顯著であると云える。

これらに次ぐものとしては Thalassiothrix, Nitzschia が上げられる。

全般を通じて云えることは動物性 Plankton としてはやはり模脚類、これを上廻つて植物性 Plankton の珪藻類と通説通りである。模脚類の分類は残念ながら為し得なかつた。ただ云えることは淡路のしかも福良と云う地理的条件により、湾内ではあるが須磨海岸等のものより遙かに種類に於て豊富であると云うことである。

Protozoa

Noctiluca scintillans Macartney

Peridinium divergens Ehrenberg

Ceratium tripos O. F. Müller
C. macroceros Cleve
C. furca Dajardin
C. fuscus (Ehrenberg)
C. pennatum Kofoid
C. breve Schröder

Larva

Müller Larva
Trochophora "
Siphonantes "
Nauplius "
カニの Nauplius "
カニの Zoea Larva
クラゲの Actinula "
二枚貝の Post "

Bacillariales

Lauderia borealis Gran
Coscinodiscus sp.
Chaetoceras diciptiens Cleve
C. neapolitanus Schröder
C. denicus Cleve
C. sp.
Bacteriastrum varians Lauder
B. delicatulum Cleve
Corethron criophilum Castr
Biddulphia sinensis Crev
Ditylium Brightwellii Grunow
Rhizosolenia stiliformis Brightw ?
R. calcaravis Schultze
R. fragilissima Bergon ?
R. hebetata (Bail) ?
R. sp.
Thalassiothrix Frauenfeldii (Grum) ?
T. sp.
Nitzschia serata Cleve
N. sp.
Navicula sp.

野生スミレのコレクション を御来観下さい

国内産約60種、外国種10種余り栽培している。同好の士の御来観を歓迎する。見限は3月20日から4月末まで。神崎郡福崎町三木医院(神姫バス福崎停留所南80メートル又は播但線福崎駅下車東南700メートル)